

# 第18回日本歯科東洋医学会九州支部講演会

～やってみよう！東洋医学～

## 特別講演

- 1 東洋医学はなぜ効くのか～鍼と漢方の生理学的機序～ 11:00～12:30  
砂川 正隆 昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門教授
- 2 病態を考慮した歯科診療と自然療法医学の応用  
～舌診と漢方診療を中心に～ 13:30～16:00  
柿木 保明 九州歯科大学老年障害者歯科学分野教授

## 九州支部理事講演 9:00～11:00

- 1 プロローグ講演 九州支部会長 平野 尚史
- 2 理事講演「食に関する一考察～素食(菜食)を実践して～」 高村 聖一
- 3 実技講習「明日からでもすぐにできる円皮鍼を使用した治療」 小原 浩司

## 受講料

当日受付(弁当なし)：歯科医師 10,000円 学生・パラデンタルスタッフ 5,000円  
事前登録(弁当あり)：歯科医師 9,000円 学生・パラデンタルスタッフ 5,000円  
事前登録締切：8月10日(期日までの振込を事前登録とします)  
振込の後、下の申込書を0944-53-5729までファックスしてください

振込先：熊本銀行菊南支店 普通預金口座 3071327  
日本歯科東洋医学会 九州支部会計 井上 泰子  
整理の都合上、振込は法人名でなく個人名でお願いします

福岡県歯科医師会館

2018年 8月26日(日) 9:00～16:00

日歯生涯研修ICカードをお持ちください

-----切り取り線-----

参加申込書(事前登録用) 締切 8月10日 Fax 0944-53-5729

Faxの前に必ず振込をお済ませ下さい。  
振込がない場合には、事前登録の扱いとはなりませんのでご注意ください。

問合せ先：  
九州支部事務局  
くさの歯科医院  
草野 真理子  
〒836-0805  
福岡県大牟田市通町  
2-12-1  
電話 0944-53-0488  
FAX 0944-53-5729

フリガナ		
氏名	電話	Fax
	E-Mail	
住所 〒		
勤務先	電話	Fax
勤務先住所 〒		
振込金額	円 本紙は一人、一枚の記入をお願いします(コピー使用可)	

## 東洋医学はなぜ効くのか ～鍼と漢方の生理学的機序～

昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門教授  
砂川 正隆



疾病構造の変化から、歯科口腔外科領域の疾患も複雑化し、従来の西洋医学的対応だけでは、治療に難渋する症例は誰もが経験をしていることでしょう。そのような症例に対し、漢方や鍼灸などの各種補完代替療法を適応し、有効であった例も数多く報告されています。

一般的な西洋薬の多くは単味の製剤で、限定された薬理作用を有しますが、鍼や漢方薬は複数の作用機序を有し、複合的な作用で治療効果を発揮します。鍼鎮痛の作用機序として、内因性オピオイドの賦活、ゲートコントロール説、下行性疼痛抑制系の賦活、グリア細胞の活性化抑制、オレキシンやオキシトシンの分泌など複数の作用機序が報告されています。また、種々の漢方薬が疼痛性疾患に用いられていますが、その中のひとつ、抑肝散(よくかんさん)を例に取っても、神経伝達物質であるグルタミン酸の分泌抑制・アストロサイトによる細胞外液のグルタミン酸クリアランス機能亢進・グルタミン酸 NMDA 受容体拮抗作用、セロトニン 5-HT<sub>1A</sub> 受容体パーシャルアゴニスト作用・5-HT<sub>2A</sub> 受容体ダウンレギュレーション作用、炎症性サイトカイン(IL-6)の分泌抑制、グリア細胞の活性化抑制など複数の作用機序を有し、鎮痛作用をもたらすと考えられています。

講演では、歯科臨床での鍼治療などツボ療法や漢方治療の例、痛みの発現機序とどのように東洋医学的療法が効くのかをご紹介します。

### 略歴

昭和 42 年生 兵庫県神戸市出身  
平成 3 年 3 月 早稲田大学商学部卒業  
平成 8 年 3 月 昭和大学歯学部卒業  
平成 8 年 4 月～平成 20 年 3 月 医療法人社団明徳会福岡歯科勤務  
平成 14 年 10 月～平成 20 年 3 月 昭和大学医学部第一生理学教室 兼任講師  
平成 15 年 4 月～ 日本工学院八王子専門学校医療専門課程 非常勤講師  
平成 20 年 4 月～平成 22 年 7 月 昭和大学医学部第一生理学教室 講師  
平成 20 年 4 月～ 日体柔整専門学校 非常勤講師  
平成 22 年 7 月 13 日～ 昭和大学医学部第一生理学教室 准教授  
平成 24 年 9 月～平成 25 年 8 月 米国ピッツバーグ大学医学部薬理学教室  
平成 29 年 4 月～ 昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門 教授

## 病態を考慮した歯科診療と 自然療法医学の応用 ～舌診と漢方診療を中心に～

九州歯科大学老年障害者歯科学分野教授  
柿木 保明



高齢社会の到来で、歯科診療の対象患者も変化してきました。これまでは、歩いて受診する健常者の歯と歯肉を対象とすることが主でしたが、介護保険の創設とも相まって、歯科診療においても要介護高齢者や多剤服用患者の診療機会が増えてきました。そのため、従来の体制や診療方法では、対応できない症例に出会うことも多くなりました。

身体の機能は、生体反応の組み合わせで成り立っていますが、それを単一の機能として対応するために、難治性疾患や心因性疾患と判断する症例も多いようです。また、自然治癒力を考慮しない対症療法に終始する場合があります。本来の生体反応は、40 億年に及ぶ生命の進化の歴史から、獲得してきましたが、それを理解することで、患者の診療やケア、リハビリに活かせる例も少なくありません。

欧米では、西洋医学と伝統医学の利点を組み合わせた統合医学に着目して、すでに自然療法医が養成されており、それを実践できる医療人の育成を進めています。本邦でも、2019 年からは、歯学教育のコアカリキュラムに和漢薬(漢方薬)が明記されたことから、今後、誕生する歯科医師は漢方医学の基礎を理解して仲間入りしてきます。和漢薬(漢方薬)を効果的に応用するためには、病態と自然治癒力の観点からも、生体反応を考慮することも必要です。

そこで今回は、舌診と漢方診療を中心に、病態を考慮した歯科診療の実践と自然療法医学の応用についてお話ししたいと思います。

### 略歴

1980 年 九州歯科大学卒業  
1980 年 産業医科大学病院歯科口腔外科・専修医  
1918 年 国立療養所南福岡病院(現国立病院機構福岡病院)・歯科医師  
1988 年 同・歯科医長  
2005 年 九州歯科大学・摂食機能リハビリテーション学分野(現老年障害者歯科学分野)教授  
2010 年 同・口腔保健学科長(兼任)  
2013 年 同・副学長、附属病院長(2016 年 3 月まで)  
2016 年 現職  
日本歯科東洋医学会・副会長  
日本障害者歯科学会・理事、指導医  
日本老年歯科医学会・指導医、専門医  
日本デンタルアロマセラピー協会・理事長 その他